



### 地域の元気を発信 FM上越開局(平成11年)

写真①＝開局当初のスタジオ内 (平成11年4月)  
 写真②＝雁木通りプラザ竣工と併せて行われた開局イベント (平成11年4月)  
 写真③＝年越し放送 (平成11年12月31日～平成12年1月1日)

- 平成11 (1999) 年
  - 4月・雁木通りプラザが開所、エフエム上越が開局(写真①③)
  - ・正善寺工房、ヨードル金谷、くわどり湯つたり村が開業
  - 7月・地球環境学校が開校
  - 10月・上信越自動車道全線開通、北陸自動車道4車線化完成
- 平成12 (2000) 年
  - 3月・上越地域医療センター病院が開院
  - 4月・直江津駅が橋上駅化され、南北自由通路が開通
  - 7月・うみてらす名立が開業
  - 11月・汚泥リサイクルパークが開所
  - 12月・ファミリーヘルプ保育園が開園
- 平成13 (2001) 年
  - 1月・市民プラザが開所
  - 3月・7つの農協が合併し、「えちご上越農業協同組合」が誕生
  - 4月・小林古径邸が開館(9月には小林古径記念美術館が開館)
  - ・上越市発足30周年記念式典開催
  - 5月・北陸新幹線上越～富山間の建設工事起工式が開催

- 平成14 (2002) 年
  - 11月・四代目市長に木浦正幸氏が就任
  - 3月・合併協議会に板倉町が加入。(4月に浦川原村と大島村、5月に安塚町と中郷村が加入し、協議会の名称を「上越地域10市町村任意合併協議会」に変更)
  - 4月・くわどり市民の森が開場
  - ・3校が統合し宝田小学校が開校
  - 5月・マリナー上越が開業
  - 7月・安塚小学校に雪冷房を世界で初めて導入
  - 10月・埋蔵文化財センターが開館
  - 12月・春日山駅が現在地へ移転
- 平成15 (2003) 年
  - 3月・上越地域法定合併協議会準備会が発足し、柿崎町、大潟町、吉川町が加入。(4月には頸城村が加入し、14市町村の枠組みが固まる)
  - 4月・パブリックコメント制度が開始
  - 8月・謙信公大橋が開通
  - 14市町村による上越地域合併協議会を設置
  - 10月・道の駅よしかわ杜氏の郷が開業
  - ・オンズパーソン制度が開始
  - ・柿崎川ダムが完成
  - ・吉川町産米を皇室へ献上
- 平成16 (2004) 年
  - 3月・新市建設計画が決定
  - 8月・清里夏まつりで聖水神輿・龍神太鼓が初登場
  - ・全日本花いっぱい大会が開催
  - 9月・男女共同参画都市を宣言
  - 10月・上越市、牧村、清里村、三和村、名立町による任意合併協議会が発足
  - 11月・四代目市長に木浦正幸氏が就任
  - 平成14 (2002) 年
  - 3月・合併協議会に板倉町が加入。(4月に浦川原村と大島村、5月に安塚町と中郷村が加入し、協議会の名称を「上越地域10市町村任意合併協議会」に変更)
  - 4月・くわどり市民の森が開場
  - ・3校が統合し宝田小学校が開校
  - 5月・マリナー上越が開業
  - 7月・安塚小学校に雪冷房を世界で初めて導入
  - 10月・埋蔵文化財センターが開館
  - 12月・春日山駅が現在地へ移転
  - 平成15 (2003) 年
  - 3月・上越地域法定合併協議会準備会が発足し、柿崎町、大潟町、吉川町が加入。(4月には頸城村が加入し、14市町村の枠組みが固まる)
  - 4月・パブリックコメント制度が開始
  - 8月・謙信公大橋が開通
  - 14市町村による上越地域合併協議会を設置
  - 10月・道の駅よしかわ杜氏の郷が開業
  - ・オンズパーソン制度が開始
  - ・柿崎川ダムが完成
  - ・吉川町産米を皇室へ献上
  - 平成16 (2004) 年
  - 3月・新市建設計画が決定

# 平成を振り返る

No.2

## 平成トピックス 新しいまちづくりに向けて ～14市町村合併へ～



市民説明会 (平成16年6月)



合併協定書調印式 (平成16年7月)

合併に当たっては、各市町村間で幾度も協議が行われました。住民の皆さんへの説明会やフォーラム、意識調査を実施し、新しいまちの形成を慎重に進めていきました。

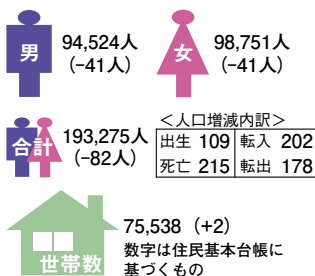
- 7月・14市町村長が合併協定書に調印
- 10月・中越地震が発生(安塚町では震度5強を観測)
- 11月・合併に当たり、開町・開村記念式典を開催

### 広報対話課から (☎025-526-5111)

●「広報上越2月15日号」は、2月13日(☎)・14日(☎)に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

### 上越市の人口・世帯数

平成31.1.1現在。( )は前月との比較



### 表紙のことは:高田のまちを歩いてみませんか?

今回特集した高田地区は、筆者が高校生の頃に通ったまちで、取材で訪れた際は青春時代を思い出すこともしばしば…。今回の取材を通して感じたのは、高田のまちの「新しい波」です。まちづくりに熱心な若者が、SNSを駆使して情報を発信し、新たな人と人との出会いを生んでいます。高田のまちを歩いてみれば、面白いことが待っているかも!?